

お ろう 尾籠・岩山 の案内

—— 標高700m ——

尾

籠(おろう)生活改善センターに車を駐車して車から降りると、南西方向に岩の山がそびえている。この山が岩山である。近くの2軒の民家を通り過ぎ、30m程車道を下ると右手に3軒目の民家がある。その民家、真田さんの家の南側が「登山口」である。山頂まで1,500mとの標柱がある。標高差は250m程である。

登山口から、よく枝打ちされた杉並木を見ながら、山道を歩き始めると、右手に真田さん宅の先祖の石碑が祀られている。この石碑を通り過ぎ、なだらかな山道を7分程歩くと、右手に炭焼き釜の跡がある。この辺りから急な登りであり、少し登るとジグザグ道となり、途中で、道が大きな岩の上を通る「岩の上の登山道」に来ると汗が出てくるので、この辺りで休憩をとると良い。登山口から20分程である。

汗が引いたら、また、急峻なジグザグ道を登っていくと1本の生木を、もう一つの木が貫いて育っている「仲良しの木」や「木のトンネル」を歩いて行くと7分程で尾根にでる。爽やかな風にいやされながら左手に行くと、テレビの共同アンテナがある。この尾根道を歩いていくと、道が二股に分かれる。やや下り気味な左手の道を進むと、少し下って直ぐ急な登り道となるが、3分程登ると尾根に出る。ここまでは、登山口から40分程である。尾根に出ると、視界が急に開け、南方に1,016mの「明神山」が堂々とそびえている。この風景に出会えたときの喜びは、これまで苦勞して登ってきた達成感と言えるものであろう。ここまで来れば後は、なだらかな道である。右に進めば明神山、左は岩山の山頂方面との標柱がある。

左手の尾根道を少し進むと、強風で根こそぎ倒れた雑木林やホソバシャクナゲが見られる。明神山を右に眺め、前方に岩山の頂上が見られる。明神山が見えるようになった所から10分程度で、岩山の頂上近くに到着する。登山口からおおよそ「1時間」である。

畳3枚程の少し平らな所を通り越して、すぐ左手に進むと、馬の背中のような岩がある。「のぞき岩」である。ここから尾籠の集落や東栄中学校などが良く見える。この岩は垂直に40m程あるので落ちないように気を付けたい。のぞき岩から戻り、南に10m程進み右手に登っていくと「標高700mの山頂」である。北に南アルプス、南に明神山が見られ、展望が最高であり、県下第一の岩場である。

山頂を通り越して岩を下がり、左に回り込むように進むと、弘法様と行者様(役行者)の石仏が祀られている。「役行者(えんのぎょうじゃ)」は、奈良時代の山岳修行者で、大和国葛城山にて修行し、のちに吉野の金峰山・大峰などを開いたと言われる修験道の祖である

行者様から戻ると、下方に畳10枚程の広場がある。尾籠地区の人々が毎年、4月15日、行者様の祭りを行っている集会の広場である。この辺りには高山植物のアカヤシオやホソバシャクナゲ、ツツジなどが群生している。4月中旬から5月は、緑色の中にピンクが入り、山一面が春色となる。

祭礼の広場下方20mには、3ヶ所ほど水が出る所がある。大きな岩の上であるのに、水が出るのは不思議なことである。昔、岩山に登られた弘法様が、のどが渇き、ついていた杖で「トントン」と地面を突かれたところ、不思議なことに清水がこんこんと湧き出したとの言い伝えがある。そこで村人達はお祭りの日に、この清水を飲むことによって、毎年、無病息災に暮らしてきたそうである。皆さんも、ぜひ、この清水を飲んで、元気に過ごしてください。効き目は1年しかないそうなので、必ず1年以内には岩山に登られ、この清水を飲むようにしましょう。これが「弘法様の清水」である。